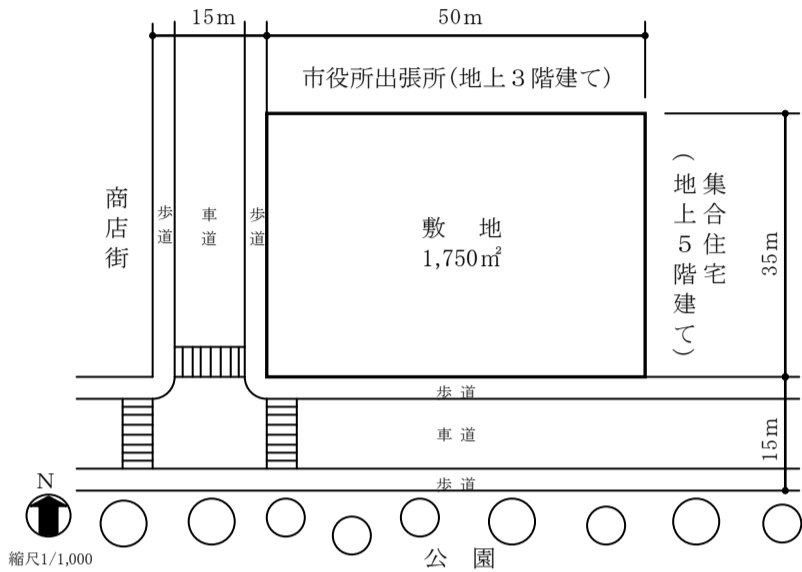


I. 設計条件

この課題は、ある地方都市の市街地において、地域図書館を計画するものである。本施設には、地域住民の利用を目的とした180人を収容できる段床形式の小ホールを設けるものとする。また、図書館部門については、自然採光を取り入れて明るく開放的な読書空間となるように計画する。なお、図書館部門の利用時間は午後7時まで、小ホール部門の利用時間は午後9時までとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所あたり6mまでできるものとする。
- 敷地は、近隣商業地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は90% (特定行政庁が指定した角地における加算を含む。)、容積率の限度は400%である。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好であり、杭打ちの必要はない。
- 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造、階数等
鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造又はこれらの併用とし、地上2階建ての1棟の建築物とする。なお、梁については鉄骨造としてもよい。
- 床面積の合計
床面積の合計は、1,800㎡以上、2,200㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
図書館部門	一般開架閲覧室	・利用時間は、午後7時までとする。 ・図書館部門への出入口には、ブックディテクションシステムを設置する。	約400㎡
	児童閲覧室	・開架書庫、閲覧席(50席程度)を設ける。 ・天井高は、3m以上とする。	約100㎡
	レファレンスコーナー	・書架、閲覧コーナーを設ける。	約30㎡
	新聞・雑誌コーナー	・図書の検索等のサービスを行う。	約50㎡
	映像シアター	・30人収容の映写室で、15分毎に上映が繰り返される。	約60㎡
	視聴覚ギャラリー	・DVD、ビデオ等の視聴覚用として6ブース(4㎡/1ブース)を設ける。	適宜
	受付コーナー	・案内、書籍等の貸出・返却の受付を行う。 ・サービスカウンターを設ける。	適宜
	図書作業室	・書籍の整理を行う。 ・閉架書庫を兼ねる。	約80㎡
小ホール部門	小ホール	・利用時間は、午後9時までとする。 ・小ホール部門は、すべて1階に計画する。 ・地域住民を対象とし、講演会、音楽発表会等に利用する。 ・客席の床は段床形式(客席1列ごとのレベル差は120mm以上)とし、180席を設ける。 ・ステージ(奥行3m以上)を設ける。 ・天井高は、最低部分の高さを5m以上とする。 ・エントランスホールからホワイエを介してアプローチできるようにする。	約400㎡
	ホワイエ	・自動販売機コーナーを設ける。	
	来館者用便所	・小ホール専用とし、ホワイエに隣接させる。	
	準備室	・2室設ける。	
	備品倉庫	・小ホールで使用する備品を収納する。	
共用管理部門	エントランスホール	・風除室を設ける。	
	事務室	・5人分の事務スペースを確保する。	
	館長室・応接室		
	会議室	・20人程度が利用できるようにする。 ・職員の会議等に利用する。	適宜
	更衣室	・男性用、女性用として、それぞれ各1室設ける。	
設備スペース	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水、電気等)、屋外機置場等を計画する。		

・上記の室に関連して必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。
 ・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。

3. その他の施設等

- 駐車場は、地上に平面駐車とし、車いす使用者用として1台分、サービス用として2台分を設ける。また、来館者用及び職員用の駐車場については、近隣の公共駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- 駐輪場は、来館者用として30台分を設ける。
- (1)及び(2)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - 敷地の周辺環境に配慮する。
 - 利用時間の違い等を考慮し、図書館部門と小ホール部門とを適切にゾーニングし、明快な動線計画とするとともに、避難等に配慮する。
 - バリアフリーに配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
 - 構造種別、架構形式及びスパン割を適切に計画する。
 - 必要に応じて、耐力壁等を設け、耐震に配慮する。
 - 部材の断面寸法を適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、照明設備等を適切に設け、環境負荷低減に配慮する。
 - エレベーターを適切に設ける。

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線は枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。(※答案用紙Ⅰは、A2サイズの5mm方眼用紙)

1. 要求図面 (答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。

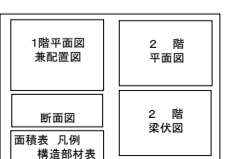
図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図兼配置図 1/200	① 1階平面図兼配置図及び2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積 ニ. 採用した構造種別、架構形式及びスパン割に応じて必要となる構造要素(必要により、凡例の空欄に記入し、図示する。) ホ. 設備シャフト〔パイプシャフト(P.S)、ダクトスペース(D.S)、電気シャフト(E.P.S)〕の位置 ヘ. 設備計画に応じた設備スペース(ただし、屋上に設けた場合は断面図に図示する。) ト. 断面図の切断位置 チ. 一般開架閲覧室及び児童閲覧室には、書架、閲覧机、いす等
(2) 2階平面図 1/200	② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 駐車場(台数及び出入口を明示する。) ハ. 駐輪場(台数を明示する。) ニ. 通路・植栽等 ホ. 小ホールには、ステージ、客席(席数を明示する。) ③ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から避難階段の一に至る歩行距離及び経路 ロ. 1階の屋根、ひさし等となる部分
(3) 断面図 1/200	① 切断位置は、小ホールを含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ④ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。
(4) 2階梁伏図 1/200	① 2階からの見下げ図とし、主要な柱(Ci)、大梁(Gi)、小梁(Bi)及びスラブ(Si)の符号を明示する。 ② 構造部材表に主要な柱、大梁、小梁及びスラブの断面寸法を記入し、主要な部材が複数となる場合は空欄に符号・部材及び断面寸法を追加記入する。なお、梁に鉄骨を使用した場合の断面寸法は、H-O×Oのように記入する。

2. 面積表 (答案用紙Ⅰに記入)

地上1、2階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。(※算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)

3. 計画の要点等 (答案用紙Ⅱに記入)

- 建築計画について、次の①～④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 建築物のアプローチ計画について、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと
 - 図書館部門と小ホール部門の利用時間の違いについて、ゾーニング・動線計画において工夫したこと
 - 一般開架閲覧室の計画について、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと
 - 小ホールの客席の計画について、バリアフリーにおいて工夫したこと
- 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割とこれらを採用した理由
 - 小ホールを無柱空間とする構造計画について、工夫したこと
- 設備計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 一般開架閲覧室及び小ホールに採用した空調方式と採用した理由
 - 受変電設備について、その設置場所を記入し、維持管理又は機器からの騒音・振動防止の観点から工夫したこと
 - 一般開架閲覧室の閲覧席の照明計画について、工夫したこと



答案用紙Ⅰ 図面レイアウト